

千判狸の呟き

大学に勤務していたころ、週2回の手術前カンファレンスは医局の主要行事だった。赴任して間もない教授の前で、緊張した面持ちの後輩医師が、受け持ち患者の肝機能データを読み上げた。彼は、胆道系酵素のアルカリフォスファターゼ（ALP）を「アルフォス」と略して発音した。教授はこのとき、発表者のみならず我々医局員に対し次のような指摘をした。「その呼び方は国際学会ではおろか公的にも認められていない。ALPと言うならいいが、以後慎むように。言葉は大切に扱わねばならない」と。

今でいうとインフォームド・コンセント（IC）を「インコン」と呼ぶようなものである。これまで医局内では習慣的に「アルフォス」と発音してきたので、何が問題なのかはじめは理解できなかった。ただ、手術法などではなく医学以外の指摘は新鮮な驚きだった。それ以降、私は「アルフォス」と言わないように努めた。

あれから40年近く過ぎたある日、「マタハラ」という言葉を耳にした。消化器外科医だった身には「股・腹」？ いったい何のことだ？ と、意味がつかめなかった。この時すでに、〇〇ハラメントの略としてセクハラ、パワハラという言葉が世に出ており、マタニティー・ハラメントの略であることを後で知った。英米人が理解できない英略語が氾濫している世相に戸惑った。このとき、かつての「アルフォス」の一件を思い出したのである。

言葉の意味や語感を大事にしようとするれば略語は受け入れがたい。一方、言葉には早く簡便に伝達することを由とする側面もある。SNSで双方向に短文が飛び交う今の時代では後者が重視されるので、略語が多用されるのも必然かと思う。しかし英略語は今に始まったわけではなく、ずっと以前からあったことに気づく。「パーソナル・コンピューター→パソコン」、「カンニング・ペーパー→カンペ」など枚挙にいとまがない。

余暇にパソコンに向かいネットサーフィンをする。このネットサーフィンという言葉は聞くだけで意味が想像できる優れた言葉だと思っていたが、実は和製英語だそう。今はIT死語になっているが、かつては「ネサフ」と略して呼ばれたことがあると知り、ここまでやるかと失笑した。日本語はアルファベットの英語とは根本的に異なるので、日本人の英会話や英語発音に難があるのは否めない。それだけに、英語を日本語的に略した独自の英略語が生み出されるのだろう。その融通性と創造力は凄いと思う。その後恩師となった教授は鬼籍に入っ

て久しいが、現状をどう思っているだろうか。

～ 雑感一言葉・メディア・熊 ～

熊じゃなくてよかつ狸

ネットサーフィンをしていて、あることが気になった。新聞やテレビのオールドメディアでは気づかせてくれなかった地球温暖化に対する懐疑論である。暑くなれば40℃を超え、雨が降れば洪水で、観測史上最高最大と形容される異常気象は日本だけでなく世界的に猛威をふるっている。京都議定書やパリ協定で地球温暖化の原因は温室効果ガス、すなわちCO₂で、これを減らさないと未来はないとされ、そう思い込んできた。しかし逆に、温暖化は人間の作り出すCO₂のせいではない、温暖化すらウソだ、という説を唱えている人たちが少なからずいることは意外だった。

最新のデータでは中国とアメリカが世界のCO₂の45%を排出している。中国はEVや太陽光パネルなどで気候変動対策をアピールしているが功を奏していない。アメリカに至っては最近パリ協定離脱を表明した。こういう状況下で2.9%の日本がCO₂削減にまじめに向き合う意義があるのか疑問だ。今後4℃程度上昇すれば沿岸都市水没、大規模難民などで人類が危機にさらされるという。これは本当か？ もしそうなら、もっと深い議論が必要だと思うのだが。

環境問題といえば、今の秋田で喫緊かつ深刻なのは熊禍だ。メディアでの目撃情報は増加の一途をたどり、私の住む団地にもついに熊出現の情報が流れた。その翌日は休日で、いつもの団地内の散歩はやめてほしい、と止める妻の声を背に受けながら運動靴の紐をきつく結んだ。予想通り、いつも見かけるウォーキングや犬の散歩ですれ違う人は皆無で、団地内に人の気配をまったく感じないまま帰宅した。もし熊に襲われてもしたら同情より笑いものになっていただろう。さらに翌朝には、出勤時の車窓からいつも眺める集団登校の小学生たちの姿がなかった。遠くにいる孫の姿と重ね合わせ、和ませてくれる朝の風景なのだが。この日は父兄が車で送ることになったらしい。

熊は人間から自由を奪うようになった。その損失は計り知れない。出会うかもしれないという恐怖心は街や公園の散策が趣味の人たちを躊躇させ、農家や外勤職の仕事は命がけだ。人を襲う熊は野に放たれた凶悪犯とみなすべきである。熊による顔面損傷は命に別状がないとしても、その後の人生に深い傷跡を残す。熊対策のため、秋田県は自衛隊派遣を要請したようだが、早く実行されることを望む。

熊じゃなく狸でよかつた、と胸をなでおろすこの頃である。